

アイヌ（ウタリ）の歴史

—少数民族と差別について考える—



津島市立南小学校

浅井厚視

①函館市北方民族資料館

函館市末広町



北方民族資料館では、市立函館博物館所蔵の、アイヌ民族をはじめとする北方民族資料を収蔵・展示しています。

②知里幸枝 銀のしずく記念館 登別市登別本町



知里幸恵(1903-1922)は、明治政府の政策(土地没収・日本風氏名への改名)により、アイヌ民族の伝統文化が危機に瀕していた時代に、北海道で生まれ育ちました。彼女はアイヌ人として、和人(日本人)社会で差別されることに慣れていました。言語学者である金田一京助(1882-1971)との出会いにより、彼女はアイヌ人が民族の誇りを取り戻す運動の先駆者となりました。19歳の若さで亡くなったとき、幸恵はアイヌの口承叙事詩「ユーカラ」を集めた詩歌集を完成。これが「アイヌ神謡集」。自らの文化の価値に目覚め、保存しようと動き出すきっかけとなりました。



登別・銀のしずく記念館3周年 横山館長「アイヌ文化の広がり感じる」 北海道新聞記事（9/18 平成25年）

【登別】登別出身でアイヌ神謡集の著者知里幸恵（1903～22年）の足跡を紹介する「知里幸恵 銀のしずく記念館」（市内登別本町）が19日で3周年を迎える。来館者は道内外から年2千人を超え、遠くはアイルランドなど海外からも訪れる。幸恵のめいで館長の横山むつみさん（65）は3年間を振り返り「アイヌ文化の広がりを感じる」と話している。

記念館は、道内外延べ約2500人から集めた寄付金3200万円で建設。神謡集の出版を後押しした東京の言語学者金田一京助とやりとりした手紙や、幸恵がローマ字表記と日本語訳を併記したノートの本原など貴重な資料約140点が展示されている。

同館を16日に訪れた愛知県あま市教委の教育部次長、浅井厚視さん（55）は「資料は原本ばかり。北海道の歴史の証しとして世界に誇ることができる記念館ですね」とたたえた。

③ アイヌ民族博物館（ポロトコタン） 白老郡白老町



アイヌ民族は東北地方北部から北海道・千島列島・樺太に居住した先住民族。狩猟採集が生活様式の中心。アイヌ語・イヨマンテ・口伝えの物語など独特の文化をもつ。江戸時代末、26000人。現在は北海道に24000人。

④ アイヌの人たちの言葉



イランカラプテ
イヤイライケレ
アイヌ
カムイ
モシリ
コタン
ヌプリ
ト

こんにちは
ありがとう
人間
神
国
村
山
湖

ペツ
アトウイ
キムンカムイ
コタンコロカムイ
日本語として使用語
トナカイ・ラッコ・ノンノ
シシャモ

川
海
熊
しま梟